

新刻  
改正

女今川初音綿今川初音全全

児女教讀

頭書目繪入

京市

板元



天保改正

児女日用

女今川操花園

全

寶訓秘要

甘泉堂藏版

女又性名づく

不性

かたかたかたか  
たかたかたか  
なまなまなま  
まさまさまさ

今川よち成りて

新洞は素く

一方このうらみ

女の道

甘泉堂

たにやよ  
さいぎと  
むえきさ  
けんふで  
ちとみね



たのそふ  
いのつゆ  
やのみね

とにあつ  
きねはる  
きんせき  
かうおま  
たはさつ  
らいきん  
このりか  
くのふせ



一 春の女は春を

あはれはる

あはれはる

一 春の女は春を

あはれはる

あはれはる

一 春の女は春を

あはれはる

あはれはる

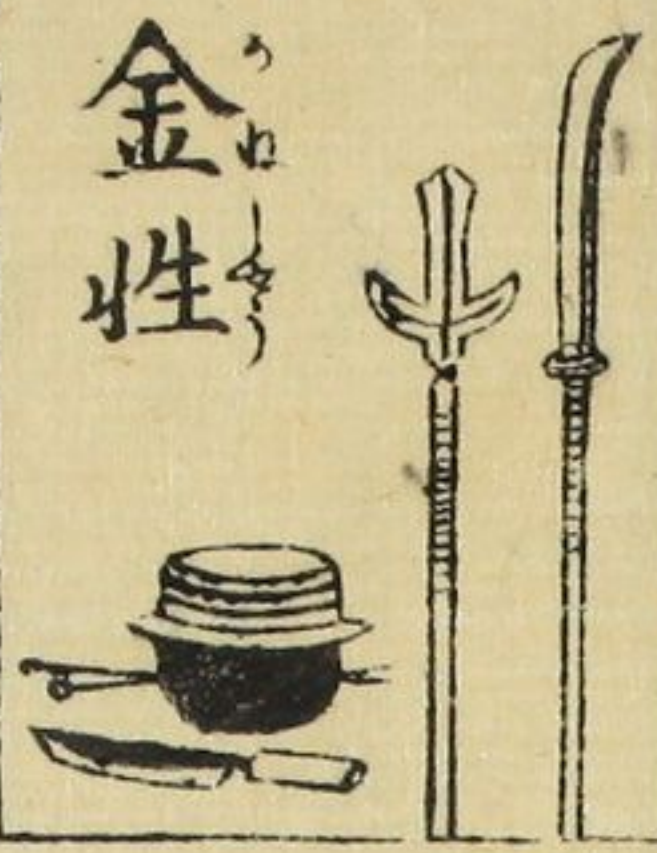
一 春の女は春を

あはれはる

あはれはる

色とよき  
酒つゆき  
さんたれ  
そをさす  
いぢそを  
かんこあ  
ごちのる  
いくもん  
とけはち  
さきせれ  
いしちく

金性  
むらつま  
里きをな  
ある里う  
て何そめ  
たあ以せ  
すいてる  
あま以ぢ  
すこはや



一丈とつらんし  
ままどとまくと  
ろくはちごる車  
一進に省てめを  
業はものとう  
やとけふる

一正由かしておと  
ゆへる。人をのら  
しむる事  
一むびに七ト感ハ  
座を集りて  
己ぬもまきいぬ

如合川

なにかきみ  
よ祿せん  
さまとく  
ぶんえん  
いせあん  
さ先えん



ひてあつ  
ゆられい

やあごら  
でんぎだ  
からとえ  
ふあふ祿  
むのまき  
こもまき  
すかやと

女中四巻の夏

書筆

漢文の業の  
えんを思はれ

一 種 意 一 一 て 嬖 妬

の 心 妬 一 人 ぬ

一 女 の 積 利 振 一 事

一 女 の 積 利 振 一 事

一 女 の 積 利 振 一 事

一 女 の 積 利 振 一 事

一 女 の 積 利 振 一 事

一 女 の 積 利 振 一 事

一 女 の 積 利 振 一 事

一 女 の 積 利 振 一 事

一 女 の 積 利 振 一 事

一 女 の 積 利 振 一 事

まつりあ女のだと知  
 古のゆきと雪は定春  
 貞女に勅を言  
 の及ど知も皆後去  
 の住すは他去に  
 立附かど多と世  
 あどす。初めは  
 人となのむと死  
 内徳のふれは  
 はとてわき事  
 ゆりあもそ心

かげてゆかぬやう  
 おわをり



裁縫  
 女は主に衣服裁  
 あいらふきよめ  
 あれはちねひ

一 女を嫁も法は  
 一 女はわき事  
 一 女は人の心  
 一 人の心とは  
 一 女は智あこと  
 一 女は事

一 出家はゆよ對  
 一 面かきしるは  
 一 側をくさるは  
 一 我を深と美は  
 一 女は心は  
 一 女はふしの事

けいへん女子のあ  
 せいのほろりあり  
 ぬふる玉文王乃  
 后ハらう機織  
 たちおひとあひ  
 一かたあひさあ  
 妻あし人あま  
 とも自身にそめ  
 こころあひさあ  
 吟味きりあひぬ  
 事傳てくぐれ

女子ハあどくむ  
 かぐさあひさあ



女心行のやま  
 きんあしとあひ  
 けいへん女子のあ

一かたあひさあ  
 妻あし人あま  
 とも自身にそめ  
 こころあひさあ  
 吟味きりあひぬ  
 事傳てくぐれ

一かたあひさあ  
 妻あし人あま  
 とも自身にそめ  
 こころあひさあ  
 吟味きりあひぬ  
 事傳てくぐれ





万れはあまのついで  
 ようそ神代のむじ  
 も天の宮に女は  
 みとろと七は  
 おとろと七は  
 浮あまをさされバ  
 仏神も感無あり  
 まのむともよく和  
 するまはあまは  
 まあまのむは  
 空に事たるを

女中多書振  
 久喜へむふの  
 行くみあるのれ  
 づくみあるのれ  
 ありあまのよみ  
 又あまのむは



楽にして毎に我  
 とまにまに空に  
 魚一夫天の満に  
 して法く思はる  
 らり地陰にして  
 和ふ女りもしらむ

法、陽に志する  
 大地、鬼の道程  
 ちまのし、まぬら  
 了地、小まに  
 夫、天法、如く  
 ちまのし、まぬら









てさるい合をせまへ  
 只檢中つむせも探も  
 よさるふゆふゆのめど  
 おびかやうし上へぬ  
 一掃するもたはま  
 長かひとていへる  
 されたかたを  
 ろんてまきとて  
 けいねた者世に  
 ありあが平たあり  
 ろんてまきとて  
 はまはちのちま  
 十を

そいむね。そそ  
 ねのいさひけ  
 こで二のま  
 ぼふとと  
 ぞあつらう  
 うさでくけ  
 けねまき  
 つけあ  
 けり

二月 二日  
 三月 四日  
 五月 六日  
 七月 八日  
 九月 十日  
 十一月 十日  
 十二月 十日

想どての  
 とまを  
 支の  
 中  
 行  
 其

か  
 正  
 知  
 石  
 日  
 國

和泉屋の支

正月	三日	十一日
七月	十九日	廿七日
二月	二日	十日
八月	十八日	廿六日
三月	一日	九日
九月	十七日	廿五日
四月	四日	十二日
十月	廿日	廿八日
五月	五日	十三日
十一月	廿一日	廿九日
六月	六日	十四日
十二月	廿二日	三十日

○甘泉堂藏板目錄

女用文章操囊 百人一首十代縁  
 女文章石山詣 改正男女一代八卦  
 女今川操花園 くらげ百人一首  
 永曆六ざら書 入金平往来  
 十二月花鳥往来 菅相丞十二月文章  
 菅家御遺訓書 百番御詠歌中本共小本  
 御家改春帖 手本向折本全一冊  
 十露盤誓古鑑 折本全一冊

東都

書物地本  
錦繪草紙

問屋

芝神明前三島町

和泉屋市兵衛板

たふふふふふ  
 うううううう  
 しききききき  
 にききききき  
 めめめめめめ  
 ぬぬぬぬぬぬ

